

宮腰光寛内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）を先頭に、

琉球泡盛の海外輸出を官民一体となって推進する

「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」を展開しています。

## 泡盛プロジェクトについて

2018年には290万人の外国人が沖縄を訪れ、7年連続で過去最高となるなど、海外における琉球泡盛の認知度向上を図るには、今追い風が吹いています。また、琉球泡盛は、ウヅカ、ジン、テキキラなどと並んで、世界的な「ハードリカー」としての可能性が秘められています。

こうした中で、内閣府では、2018年4月から、これまで、国、県、関係団体がそれぞれに支援してきた琉球泡盛の輸出に向けた取組を官民一体となって推進・促進する「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」（以下「泡盛プロジェクト」）を進めています。同年6月には、閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018」（骨太の方針）において、「琉球泡盛の海外輸出プロジェクトなどを通じ、沖縄県産酒類の振興を促進する」とされるなど、泡盛プロジェクトは、沖縄の振興を図る上でも、大きな柱の一つとして位置付けられています。

## 輸出倍増計画と実績について

泡盛プロジェクトでは、泡盛製造業関係者が自ら定めた「3年後に倍増」計画（泡盛輸出数量を、まずは2020年に70キロリットル）を実現するため、これに向けた官民の具体的な取組を明らかにする「行動計画」を策定しています。

泡盛プロジェクト1年目となる2018年度は、「第1回空手国際大会」での海外空手家に対するPR動画などを用いたプロモーションの実施や、「沖縄大交易会2018」での海外バイヤーなどに対する輸出商談会の支援、タイ、シンガポールなどにおける泡盛カクテル（アワモリータ）を活用したプロモーションの実施など「行動計画」に基づいて、泡盛酒造所29社に対して、プロモーションや商談の実施などの支援を行いました。また、こうした支援を国・地域別にみると、17の国・地域となつています（国内で実施するインバウンド向けの事業などを除く）。

その結果、2018年に琉球泡盛の海外輸出を行った酒造所は22社と、2017年の19社に比べて増加しています。

その一方で、総輸出量は、約31キロリットルと、2017年の29キロ

リットルと比べて約6%の増加にとどまっております。泡盛プロジェクトの目標達成のためには、今後2年間で約2・3倍増と、取組の加速化が必要です。

## 2019年度に向けて

今後の2年間で約2・3倍の輸出量増を実現するため、4月に開催したプロジェクト会合では、「行動計画」を改定しました。新たな「行動計画」では、これまでの取組をさらに推進するとともに、海外への輸出入のノウハウ・販路を有する様々なビジネスセクターと泡盛事業者とのマッチングなど、具体的な商流に繋げる取組も進めていくこととしています。

また、官民の具体的な取組として、琉球泡盛と沖縄県産の原料米を結びつける「琉球泡盛テロワールプロジェクト」や、在外公館などにおける会食、レセプションなどの機会を捉えた泡盛PRの実施など、6分野60の取組を進めていきます。

## 酒造組合の取組



○安倍内閣総理大臣・宮腰大臣への「琉球泡盛」の贈呈

4月8日、官邸において、安倍総理及び宮腰大臣に、佐久本学沖縄県酒造組合会長及び泡盛の女王（喜



▲安倍総理及び宮腰大臣へ泡盛贈呈

出典：首相官邸ホームページ  
([https://www.kantei.go.jp/jp/98\\_abe/actions/201904/08awamori.html](https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/201904/08awamori.html))



▲第5回プロジェクト会合





▲第2回泡盛フェスタ開会式

納舞杏さん、砂邊由美さん、知念妃さん）から、琉球泡盛が贈呈されました。安倍総理は、感謝の意とともに、2020年までに琉球泡盛の輸出量倍増を達成し、かつ、沖縄県産の長粒種米を使用した泡盛製造を推進する「琉球泡盛テロワールプロジェクト」が沖縄にとって非常に重要なプロジェクトである旨を述べました。

#### ○第2回泡盛フェスタ

4月13日、宮腰大臣、玉城デニー沖縄県知事、城間幹子那覇市長、佐久本県酒造組合会長参加のもと、奥武山公園で「第2回泡盛フェスタ」の開会式が盛大に催されました。

13日・14日の2日間で、約1万5千人が来場したフェスタ会場内では、泡盛プロジェクトのブースを設置し、各種取組のPRを行いました。



▲泡盛プロジェクトブース（第2回泡盛フェスタ）

#### 沖縄総合事務局の取組

##### (1) 泡盛酒類製造業の自立経営促進事業【総務部】

2018年度については、2事業者を選定し、欧米・中国市場における販路拡大に向けたブランディング構築、テストマーケティングを実施しました。また、琉球泡盛の市場拡大に向けた情報発信事業として、空手と泡盛の関連動画を制作し、SNS・動画サイトなどによる情報発信を行いました。

2019年度については、7事業者を選定し、欧州・北米・アジア市場などにおける販路拡大に向けたブランディング構築、テストマーケティングなどの調査や、県産長粒種米による泡盛の製造などの取組を支援します。

##### (2) ハードリカープロジェクト【泡盛海外展開の支援】【経済産業部】

酒造所などが、琉球泡盛の持つポテンシャルを活かし、アルコール度数の高いハードリカーとしての欧米圏の市場獲得を目指すプロジェクトです。マーケットインの視点による商品開発やブランド構築、泡盛カクテルコンペティションなどの効果的なプロモーションなどにより世界にAWAMORIを訴求していくための取組を支援しています。

##### (3) 琉球泡盛テロワールプロジェクト【農林水産部】

去る2月8日に沖縄県、JAおきなわ、沖縄国税事務所、県酒造組合などの関係機関で構成する琉球泡盛テロワールプロジェクトを立ち上げました。

琉球泡盛と県産米をつなげることにより、米生産者は収入の増加が見込め、泡盛製造事業者も県産原料で付加価値を高めた泡盛を製造することができ、輸出促進に貢献できる

Win・Winの関係を築くことを期待して、県内での泡盛原料米（長粒種米）の生産に向けた検討・取組を進めています。

#### そのほか官民の主な取組



○沖縄国税事務所は、歴代の「泡盛の女王」に「泡盛クイーンズサポーター」を委嘱し、第2回泡盛フェスタなど各種イベントへの参加を通して琉球泡盛の消費拡大を支援しています。



▲泡盛クイーンズサポーター委嘱状交付式

○外務省は、数ある在外公館など（日本大使館、総領事館）において泡盛の魅力をアピールする様々なイベントを開催しています。また、昨年8月には、サンパウロのジャパン・ハウスにおいて、「和牛と泡盛



の夕べ」と称したプロモーションイベントを実施するなど、総合的な食文化としての売り込みも行っています。

○県酒造組合と日本貿易振興機構

（ジェトロ）は、東京都で開かれた「第20回タイフェスティバル2019」での泡盛試飲ブースの設置など、泡盛を始め、泡盛をベースとしたリキールやスピリッツなどの商品提案によるPR活動などを実施しています。また、日本酒造組合との連携での「FOODEX JAPAN」出展を始め、県の再興プロジェクトとの連携による「ツーリズムEXPO」への出展を行いました。さらに、沖縄観光での琉球泡盛の魅力発信を始め、酒蔵ツーリズムを踏まえて、地域と泡盛酒造所の親和性を加味した「島酒ツーリズム」など、観光の視点から泡盛を結びつける普及啓発活動なども行っています。

○JALグループでは、2018年

11月に「泡盛グランプリ」を開催。計4部門（古酒10年以上、古酒10年未満、一般酒、泡盛系リキール・スピリッツ）へ計31酒蔵より計90銘柄のエントリーがあり、各部門でグランプリ・準グランプリの計8銘柄を選定しました。また、

受賞8銘柄は羽田・成田両空港のJALラウンジでの提供に加え、両空港売店での販売を実施しました。さらに、3月にパリのアンテナショップで開催した沖縄フェアにて「食とのコラボ」をコンセプトに8銘柄を提供し、PRイベントを開催しました。



▲泡盛グランプリ発表記者会見

○沖縄県、沖縄観光コンベンションビューローは、沖縄ナイトIN台湾、韓国、香港の会場内で、県酒造組合や、県内泡盛メーカーの協力を得て泡盛を提供しています。

○沖縄県産業振興公社（沖縄大交易会実行委員会事務局）は、沖

## 琉球泡盛海外輸出プロジェクト

### 目的

琉球泡盛の海外展開を促進するため、官民の関係者一体となった取組を推進  
（目標値）令和2年（2020年）70キロリットル、令和4年（2022年）100キロリットル  
※現状（平成29年（2017年）29キロリットル、（平成30年（2018年）31キロリットル）

### 構成

目的に賛同する関係団体、地方公共団体、関係府省などで構成  
【顧問】 宮腰光寛 内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）  
【会長】 小泉武夫 東京農業大学名誉教授  
【副会長】 佐久本学 沖縄県酒造組合会長  
【会員】（関係団体等） 沖縄県酒造組合、沖縄県卸売酒販組合連合会、沖縄県小売酒販組合連合会、沖縄県商工会連合会、沖縄県商工会議所連合会、沖縄県産業振興公社、沖縄県ホテル協会、沖縄観光コンベンションビューロー、泡盛マイスター協会、日本ソムリエ協会、沖縄県物産公社、沖縄振興開発金融公庫 ほか  
（地方公共団体・関係府省） 沖縄県、内閣府、国税庁、内閣官房、外務省、農水省、観光庁、JETRO

### 取組内容

- ・行動計画（平成31年4月14日改定）に基づき、プロジェクト会員（個人・団体）が、「訪日外国人に対する視点」、「海外市場に対する視点」および「具体的な商流につなげるためのビジネスの視点」の3つの視点から、6分野60の取組を実施
- ・プロジェクト会合を開催し、会員相互の取組について情報交換

### 具体的な関連プロジェクトの例

- ・欧米・アジアでのモデル事業の実施を通じて、泡盛酒造所の販路拡大に向けた事例共有（内閣府）
- ・琉球泡盛と沖縄県産の原料米を結びつける「琉球泡盛テロワールプロジェクト」の実施（内閣府、農林水産省 ほか）
- ・在外公館等において、会食、レセプション、文化事業等の機会を捉え、泡盛のPRの実施（外務省）
- ・「島酒フェスタ」による地域DMOとの連携した酒蔵ツーリズムの取組（沖縄県酒造組合）など

### プロジェクト会合の開催

平成30年4月13日：第1回  
14日：プロジェクト設立記念イベント開催（第1回島酒フェスタ）  
8月10日：第2回  
11月2日：第3回  
平成31年1月27日：第4回  
4月14日：第5回



▲沖縄ナイトIN韓国



▲沖縄ナイトIN香港

縄大交易会を開催し、酒造メーカーと海外バイヤーの商談を支援しています。

沖縄総合事務局ホームページ「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」も併せてご覧ください。  
<http://www.ogb.go.jp/soumu/017012>